

## 講師紹介



### Dr. Brenden Jongman

世界銀行 防災復興グローバル・ファシリティ 災害リスク管理シニアスペシャリスト  
世界銀行にて「[自然に基づく解決策を用いた気候変動レジリエンス強化に関するグローバルプログラム](#)」を主導する。同プログラムは、世界銀行のポートフォリオ全体において、自然に基づく解決策の実施を拡大することを目的としている。オランダ国籍で、アムステルダム自由大学環境研究所で水と気候に関するリスクマネジメントに関する博士号を取得し、レジリエンスと気候変動に関する 40 以上の査読付き論文を発表している。



### 小西 力哉 / Mr Rikiya Konishi

国連食糧農業機関 森林局 森林強靱化チーム フォレストリー・オフィサー  
2020 年から生態系を活用した気候変動適応プロジェクト「国際的山地強靱化事業」を主導している。2000 年に林野庁に入庁後、林野庁、環境省、外務省などで様々な役職を歴任。その間、JICA、FAO、ITTO、FCPF、UN-REDD、WB、GEF、UNDP、CBD、UNU、OECD との自然資源管理プロジェクトやプログラムに従事。プロジェクトマネージャーとして、F-DRR と農業バリューチェーンの概念を開発途上国の活動やプログラム、政策に組み込み、普及させることに取り組んでいる。



### 池上 宇啓 / Mr. Takahiro Ikenoue

独立行政法人 国際協力機構 地球環境部 自然環境第二チーム 課長  
1995 年に国際協力事業団（現「国際協力機構」）に入団。以後、林業・自然環境保全分野の国際協力プロジェクトや民間連携事業等に従事。現在は中南米、アフリカ、中東・欧州地域の自然環境保全分野の国際協力事業の総括を担う。2008 年にリーズ大学にて生物多様性保全学にかかる修士号取得。



### 古市 剛久 / Dr. Takahisa Furuichi

森林総合研究所 森林防災研究領域 特別研究員  
東北大学で学び、JICA に就職、退職後オーストラリア国立大学にて PhD 取得。専門は地形学、ミャンマー、ベトナム、オーストラリア、北海道、東北地方などで自然災害や土地荒廃が顕在化した現場、気候変動の影響が疑われる現場を調査対象にして、地形変化の研究を進めている。



### 浅田 陽子 / Ms. Yoko Asada

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 政策研究事業本部 地球環境部 兼 自然資源経済・政策室 副室長 主任研究員  
東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻修了。森林・土地分野における国内外の気候変動政策、市場メカニズム、森林・林業・木材産業政策、木質バイオマスエネルギー政策等を専門領域とし、中央官庁・自治体の調査研究業務、民間企業向けコンサルティング業務に従事。



### 稲田 徹 / Dr. Toru Inada

アジア航測株式会社 海外プロジェクト部副部長  
英国ウェールズ大学で熱帯森林学の博士号を取得。青年海外協力隊（マラウイ）、民間コンサルタント、JICA 長期専門家を経て、現職。気候変動の緩和と適応、森林バイオマスと炭素貯蔵量の推定、REDD プラス、持続可能な森林管理等に携わる。2017 年より JICA 北マケドニア Eco-DRR プロジェクトに携わる。



### 菅野 孝美 / Dr. Takami Kanno

川崎地質株式会社北日本支社 執行役員支社長  
川崎地質株式会社北日本支社の支社長として勤務。10 年近くハノイ事務所の所長として様々なプロジェクトに参画。1987 年に新潟大学理学部を卒業、1989 年に愛媛大学大学院を修了し、2010 年に愛媛大学工学部より PhD を授与。JSCE の特別上級土木技術者として主として斜面、河川及び砂防系の防災・減災に取り組んでいる。



### 井口 次郎 / Dr. Jiro Iguchi

(株)パデコ インド支店長 チーフコンサルタント  
横浜国立大学で博士号（国際開発学）を取得後、1998 年パデコ入社。25 年にわたるインドシキム州森林保全・生態系管理事業、マレーシアサバ州での生物多様性保全事業、インフラ開発における環境社会配慮など、現地政府や国際機関への環境管理分野のコンサルティングを実施してきた。



### Mr. Ta Ngoc Tan

ベトナム防災総局 科学技術・国際協力担当上級専門官  
2015 年にベトナム水資源大学にて水資源計画に関する修士号を取得。科学技術と国際協力を重視した水資源管理と災害リスク軽減について経験豊富で、特に物理的・数学的モデリング、ダム安全性、河川流域管理、地方の水衛生、干ばつ対策の分野で、多くの ODA 技術支援プロジェクトの構築と自然災害リスク軽減に関する研究プロジェクトの策定を推進している。



### Dr. Rex Victor O. Cruz

フィリピン大学ロスバニョス校 (UPLB) 名誉教授  
UPLB で森林学修士、米国アリゾナ大学で流域管理の PhD を取得。UPLB 学長、UPLB 林業・天然資源大学学部長、UPLB 林業開発センター所長を歴任。フィリピン国立科学技術アカデミーの学識経験者。1995 年、2001 年、2007 年の国連 IPCC 評価報告書の著者であり、フィリピン気候変動評価報告書 (PHICCA 1 および PHICCA 2) の統括執筆責任者でもある。アジア太平洋林業ネットワーク (APFNet 2015-2019) 元理事。



### Dr. I Wayan Susi Dharmawan

インドネシア国立研究革新庁 生態学・民族生物学研究センター 主任研究員  
2012 年、ボゴール農業大学にて博士号を取得。最新の研究は、中央カリマンタンの焼畑泥炭湿地林と伐採泥炭湿地林における炭素蓄積量の動態と CO2 排出量の評価である。2013 年から 2017 年にかけて、全 ASEAN 加盟国の森林資源評価 (FRA) 能力向上のためのプロジェクトを取りまとめた。また、2015 年からは気候リスクと機会管理センターで実施されていた地域に適切な緩和活動に MRV の専門家として参加。FCPF (森林炭素パートナーシップ基金) 及び BioCF (バイオ炭素基金) の 2018 年～2020 年のプロジェクトコーディネーターを務めている。